

次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT)

受講生の活躍紹介 (記載は令和4年6月時点)

東北大学

北海道大学、小樽商科大学、宮城大学、京都大学、神戸大学

EARTH on EDGE

ホームページ <https://www.fingervision.jp/>

本人 略歴

- ボストン・コンサルティング・グループ(BCG)にて産業財セクター、テクノロジー/デジタルセクターを中心に多数のプロジェクトに従事したのちに創業

事業 概要

- 触覚センサ及びその処理プログラム等の開発、製造、販売など
- ロボット及びその周辺機器等のシステム構築、導入、保守、運用支援、リース及び技術指導

〈今後のビジョン〉

- 労働集約的な食品加工業界に、光学式触覚センサー付きハンドロボットを導入することで、生産性向上と人手不足解消という課題解決を目指す。食品加工業界では、その対象物が不定形・柔軟物・多様であることから、特にピック&プレース工程のロボットによる自動化が困難であった。この点、ロボットに触覚センサーを装着することで、技術的難易度の高かった工程を自動化・省人化でき、工場の生産性向上に貢献できる。
- さらに、当社技術の適用先は、食品領域に限定されない。そのほか、化学系メーカーや大衆薬メーカー、家電メーカーなどからも生産プロセス自動化用途での活用可能性を検証したいとの声を受けている。加えて、ロボット以外の領域で、介護向け安全センサや、医療機器への転用可能性など他領域への拡張性は大きく、食品と並行して用途開発を進めていく。

〈EDGE-NEXT(BIP-OJT)受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 東北大学情報科学研究科 山口明彦助教（2018年当時）のBIP案件に研究題目「視覚と触覚を合わせ持つロボット用革新的センサのプロトタイプ開発と事業性検証」で採択された
- 2018年当時は、触覚センサの適用候補である食品業界におけるニーズや本技術を活用した解決の可能性が不明瞭であり、事業として成立するか否かの検証を行う必要があった。そのために必要な研究機材なども所持していない状況であったため、助成資金は研究の促進に大きく貢献した
- その他、知財や資金調達などに関するアドバイスも創業準備に向けて役立った



ホームページ

<https://www.yugenjp.com/>

本人 略歴

- Micorsoft Accenture Project Amplify Asia 受賞 2021年8月
- お茶大シンポジウム「女性の起業が社会を変える」2022年2月
- DStartup Pitch Conference CIC Tokyo 2022年2月

事業 概要

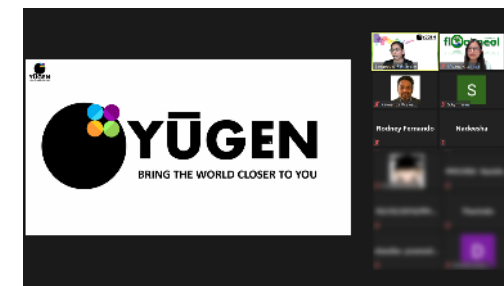
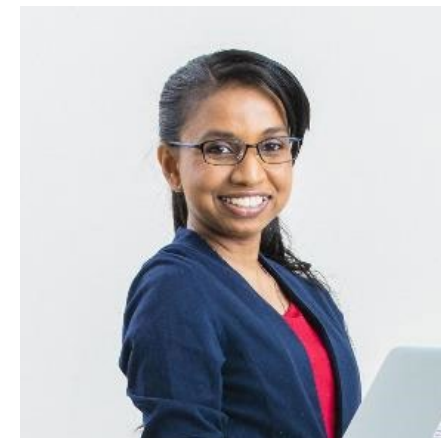
発展途上国の地方大学に通う優秀な学生と、人材不足に悩む日本企業とのマッチング・プラットフォームの提供。

世界をより身近なものにする~YUGEN~

- 近年日本では労働力の減少が懸念されており、他国から能力の高い人々を連れてくることに注目されています。一方で、私の母国であるスリランカをはじめとした発展途上国では、優秀な学生を多く輩出する大学が数多くあるにもかかわらず、学生たちが就職先の不足に悩まされていたり、彼らの能力を活かすことが出来る環境に恵まれていないのが現状です。
- このギャップに注目したのが私たちYUGENです。私たちは発展途上国の学生と日本企業を繋ぐオンラインプラットフォームを作成することで問題解決に挑みます。日本企業に興味を持つ学生と企業をYUGEN独自の技術でマッチングし、さらに大学も巻き込んでこの事業を行うことで、ミスマッチをなくします。

〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- お茶の水女子大学シンポジウム「女性の起業が社会を変える」にスピーカーとして参加する機会を得ました。外国人女性起業家として、日本での活躍の場を得ることができました。
- 北海道大学にいるEdge-nextのスタッフは、私たちが必要とするときにいつでも、法的側面やメンターサポート、ビジネスモデルをより強固にし、常に変化する世界に適応できるようにするための専門家の紹介など、さまざまなプロセスで指導してくれました。



一般社団法人Ezofrogs（設立2021年）

代表理事 大湊亮輔さん

コンソ名称 Earth on Edge

所属大学 小樽商科大学大学院

ホームページ <https://www.ezofrogs.com>

本人 略歴

- 2005年北海道大文学部卒業、観光業界の大手出版会社を経て2016年12月退職を機に右腕カンパニー(株)創業、2017年4月より小樽商科大学大学院へ進学、19年3月修了。2021年3月、(一社)Ezofrogs設立

事業 概要

- 北海道に縁ある13-25歳程度の学生を対象とした半年間、参加費無料の人材育成プログラム
- 日本や世界で活躍するビジネスパーソンとつながるグローバル研修を中心に、「社会課題解決ビジネス考案」を通じて、企業家精神を身につける狙い

〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- Ezofrogsの「frogs」は、その名の通り「蛙」を指し、井の中の蛙にならないように、という意味を込めている。北海道にいと、つい「世界」が狭くなりがちである。私達が提供するの、何かしらの「教え」ではなく通常の生活では得ることが出来ない、圧倒的な「気づき」と「発見」の機会である。
- Ezofrogsは、学力関係なく学生を選抜し、半年間メンタリングを中心に伴走する。初年度は4名の受講生（高校生3名、大学生1名）が、半年間を通じて挑戦することの意義、学ぶことの意義を再認識し、数年後の起業を見越してベンチャーへの就職、研究を深めることに目覚め大学転籍などの実績が出来た
- 起業家だけが増えても世の中は良くならない。起業家精神（高い当事者意識）を持った人材が、起業のみならず世の9割に及ぶ中小企業や行政などに進み、変革人材として活躍していく未来を創出するのが自分たちの役割であり、Ezofrogs出身者が北海道を元気にしていくことがビジョンである。

〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 企業から与えられた課題を、未来を妄想しながら現在と結び、解決方法を考案するプログラム「Demola」を受講したが、業種・業界・年齢や立場を超えて企業の課題解決に挑むことで、いかに「常識」「慣習」に囚われないことが重要であるか、そして結果を急ぐのではなく、そもそも自分達は何を解決したいのか、課題を深掘して「真因」を見つけることの重要性を再認識した。
- 講義という形式に都合上、時間は限られるが、結果をすぐ求めるのではなく、すぐなんとなく見え方が良さそうな解決策（手段）を考案するのではなく、納得いくまで課題を深ぼることで、最終的には解決策が磨かれる体験は、現在のEzofrogsプログラム運営においても譲れない軸・信念としている。



Demola Final Pitchの写真



Demola 終了後の懇親会

略歴

- 2020年4月宮城大学入学
- 6月ごろからEDGE-NEXTのプログラムに参加

活動内容

ソーシャルアントレプレナー演習、Double Diamond Workshop、VESTA FDC、ものづくり研究室、「ふるさとの記憶」模型復興プロジェクト、寺岡Knots

〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 大学在学中に、宮城県内でのイベント出店、ワークショップ開催。

〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 石巻で行われたソーシャルアントレプレナーシップ演習に参加した。地域で活動している方に講師になっていただき、海岸の清掃や街歩きなどを行った。
- Double Diamond Workshopに参加した。アイデア発想法や、プロダクトの観察を行った。日常の中にあるデザインを意識するようになった。
- VESTA FDCに参加した。地域の方から得た情報や活動内容をもとにアクターネットワーク図を作成した。フィールドワークで現地の雰囲気や街並みから得た情報も入れ込んだ。
- ものづくり研究室に参加した。来客のデータを参考に多方面からまちスポをよりよくなる仕組みを考え作成した。来客を目に見える形にするWood Mark、館内地図、自由に服を交換できるリトルフリークローゼットを作成した。
- 「ふるさとの記憶」模型復興プロジェクトに参加した。震災前の模型が被災者の心に寄り添うものということを学んだ。
- 寺岡Knotsの名称やロゴ、コンセプトを作成した。オープン初日にはイベントも行った。

チーム画像



制作物



活動風景



エニシア株式会社（設立2017年）

代表取締役CEO 小東茂夫さん

コンソ名称 Earth on Edge

所属大学 京都大学

ホームページ <https://enishia-inc.co.jp/#TOP>

本人 略歴

- 大阪大学経済学部卒、京都大学経営管理大学院卒
 - 京都市役所、KPMG等を経て創業
- 【主な受賞歴】2020年起業家万博最優秀賞(総務大臣賞)、ITU（国際電気通信連合）特別賞、等

事業 概要

- カルテ要約支援ソフトウェアSATOMIの開発・普及
- 医師の働き方改革に貢献するとともにカルテテキスト情報の高度な利活用を図る



ソフトウェアSATOMI



〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 言語処理技術を用いてカルテの要約作成を支援し、医療の質と生産性向上に貢献するソフトウェアの開発により、臨床現場に立つ医師と情報技術を協調させる
- 医師の事務業務の負担を軽減し、本来の医療行為により専念できる環境づくり、持続可能な医療体制の構築に貢献することを目指す。
- 診療したデータを利活用できる形にして、次の診療や医学の進歩に繋いでいくことを目指す。
- 京都大学大学院医学研究科EHR共同研究講座との共同研究で臨床使用時の改善効果分析実施
- NVIDIA社のAIスタートアップ支援プログラム「NVIDIA Inception Program」に採択
- マイクロソフト社のスタートアッププログラム「Microsoft for Startups」に採択

未来のピッチ 2019

〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- 会社設立時にEDGE-NEXTのGTEPカタパルトプログラムを受講（2017年度）、教員、ベンチャーキャピタリスト等からのメンタリングを受ける
- EDGEプログラムの後継である「技術イノベーション事業化コース」に参加（2016年度）
- EDGEプログラムで整備したKUPEP(京大アントレプレナープラットフォーム)を拠点として活動（2016年度～2021年度）、エコシステムを活用しネットワークを拡大



ホームページ <https://bugmo.jp/>

本人 略歴

- 神戸大学発達科学部卒業
- 【主な受賞歴】第3回滋賀テックプラングランプリファイナリスト（2019年）
U-25関西若手起業家ピッチコンテスト最優秀賞（2018年）

事業 概要

- 食用昆虫の養殖システムの開発
- 昆虫由来の食品その他の開発・製造・販売



〈現在社会に与えているインパクト・成果〉 または 〈今後のビジョン〉

- 地域資源のみを使い、養殖からデザインした旨み原料としての食用コオロギパウダーの提案をしています。人の口に入る瞬間から逆算した「食材」として捉えなおし、ものづくりをしています。植物の生育が光、CO₂、熱といった外因ストレスに左右されるように、昆虫もエサや環境といったインプットにより味や栄養が左右されます。私たちは養殖含め、その前後の加工プロセスをマネジメントすることで、美味しく栄養のあるコオロギ原料を供給します。
- 国・地域で出る農業残渣を使って、美味しく栄養のある食（たんぱく質）を国・地域で生産・消費することができます。誰もが等しく美味しく栄養のある食を作れ、食べれる世界を。誰もが自分の体も、心も、人生も満たすことができる世界を実現します。



ウガンダの小学校でのインターンシップの様子

〈EDGE-NEXT受講プログラム・活動内容・取組成果・与えた影響等〉

- EDGE-NEXTの一環でメンタリング並びに試作品のテスト、連携候補企業の紹介などを実施した。
- 神戸大学でのEDGE-NEXT関連プログラムやイベントにて、起業する大学生のモデルケースとして、起業経験や世界的課題解決に挑戦することの意義について紹介した。
- 平成30年度スーパーサイエンスハイスクール生徒発表会でEDGE-NEXTのブース出展の際には、高校生へ世界的課題に対して挑戦する大学生として、EDGE-NEXT事業や大学生の起業について紹介した。



株式会社BugMoのロゴ（創業時）